

## 4 第5回専門家会議について

### (1) 第5回専門家会議に向けて

#### ①地元説明会（地元代表含む）

目的 地元と行政が情報を共有しながら説明・協議を重ねることで、地元の意向をよりの的確に総合評価に反映させる。

#### ②現地調査

目的 図上や候補地の周辺を中心に評価選定してきた候補地に対して、候補地内に立入り、環境、地形・地質、湧水などの専門的な調査を行い、建設に関する評価に反映させる。

また、施設配置や搬入道路経路の計画を行い、施設配置図案を作成する。

#### ③専門家委員の同行

目的 現地調査結果を踏まえて作成した施設配置図案を基に、専門家委員と共に現地調査を行い、専門的な意見や助言を頂きながら直接確認して頂いた調査結果を総合評価に反映させる。

#### ④工程

10月 地元説明会（地元代表含む）

経過説明、地元の意見・要望の把握、現地調査の了解 等

11月～12月 現地調査（専門家委員の同行含む）

1月 地元説明会

現地調査の結果、地元の意見・要望に対しての協議 等

### (2) 総合評価について（資料 5-2 参照）

①現地踏査＋現地調査＋地元説明会の結果を総合評価し、適地を選定する。

②現地踏査による評価は、評価項目毎に相対的に評価し順位付けを行う。

③現地調査による評価は、「適している」「普通」「適していない」に評価する。

- ④総合評価は、現地踏査と現地調査の評価に地元説明会の内容を加え、候補地としての適正を理由を付して順位付し、1位の評価が最も多かった候補地を適地とする。

### (3) 現地踏査について

#### ①環境影響

動植物の分布状況の把握を行う。併せて、想定される発生源からの景観、振動・騒音、悪臭の影響の程度を調べ、概略的な環境影響評価を行う。

#### ②地形・地質

災害履歴や路頭の状況及び堆積物の状況等を調査し、処分場建設の支障となる事象の有無を確認し評価する。

#### ③地下水

沢筋を中心に調査を行い、湧水箇所や湧水量を把握することにより地下水の分布状況の評価する。

#### ④建設運営

計画している施設配置や搬入道路を設置する際の土工量等を現地確認し、概算工事費の精度を上げる。

### (4) 現地調査について

#### ①ボーリング調査

##### 標準貫入試験

不安定な堆積層や軟弱層の有無や地盤・岩の強度の把握を行い、地盤の安定性の評価を行う。また、貯留構造物等の支持層の深さや支持方法等の想定を行う。

##### 現場透水試験

埋立地基礎地盤の透水係数を把握することにより、自然地盤として不透水層として判断できるかの評価を行う。